

令和3年度阪神地域夢会議（未来フォーラム） 開催結果

- 1 日 時 令和3年8月1日（日） 13:30～16:30
 2 場 所 オンライン（Zoom）、リードあしや（芦屋市公光町5-8 C、D会議室）
 3 出席者 121人（オンライン参加71人、会場参加50人）

4 内 容

参加者が阪神地域（尼崎市・西宮市・芦屋市・伊丹市・宝塚市・川西市・三田市・猪名川町）の2050年を展望する、新しい地域ビジョンをつくるため、「将来こうなったらいいな」という地域の姿と各自のベストアクションを、4つのテーマごとにオンラインで14班、会場で4班の計18班に分かれて、グループ討議を行った。

各班の2050年の未来を描いた未来像及び自らが行う各自のベストアクションを作成。班ごとに検討内容を発表し、ベストアクションを掲示。

発表及び専門委員の講評の内容は以下のとおり。

【テーマ：住みたい、訪れたいまち】

- ① 未来像：「自然や緑が多くて、外国人・子供・高齢者、みんながコミュニケーションをとれて、みんなに優しい未来をつくる」

ベストアクション

- ・地域のイベントに積極的に参加。植物や木を増やすようなイベント。
- ・「環境」「コミュニケーション」「多文化（外国人）」→英語を習得する
- ・ボランティア活動に参加。高齢者に対してはパン教室、料理教室。子どもに対しては昔のあそび、くらしを教える。外国人に対しては外国語を学び外国語でコミュニケーションがとれるようにする

- ② 未来像：「災害に強く安心安全で、地域ぐるみで育み合って、すべての人の格差のない未来をつくる」

ベストアクション

- ・ハザードマップを作り地域の施設（老人ホームなど）に配る

- ③ 未来像：「阪神地域の豊かな自然環境をいかしながら、多世代が仲良く協力しあって進化して安心して楽しく暮らせるような未来をつくる」

ベストアクション

- ・阪神地域で遊ぶ。自然を増やし守る。地域の良さを発信する。
- ・地域での活動やボランティアをたくさんする
- ・私は地域の文化財を案内・説明できます
- ・健康、長寿で若者に迷惑をかけない豊かな人生をおくる

④ 未来像：「災害のない安心安全で、自然を大切に住みやすい、きれいな街で、老若男女が共に学びができるような未来をつくる」

ベストアクション

- ・経営者などいろんな専門の方をお呼びし、参加しやすいセミナー施設や学校などに顔を出しに行く（相談にのったり、遊んだりなど交流を深める）
- ・災害時の心得を地域普及する

⑤ 未来像：「自然あふれる阪神で、子育てしやすく、関わりを大切にできる未来をつくる！」

ベストアクション

- ・自分の周りの自然を大切にする。違う世代の人たちと関わる場所に積極的に行く
- ・近所の人と、あいさつだけではなく会話を増やす
- ・地域社会のかかわりを密になって行けるようにする
- ・日頃から地域の人と挨拶・会話をし、イベントなどでさらに交流を深める
- ・週に1回各地でリモート、公民館等で話し合う時をもちたい
- ・まずは地域の取り組みを知る
- ・花木を大切に育てる。地域のイベントに参加する。朝出会った人に大きい声で挨拶する。

⑥ 未来像：「高齢者、障がい者、みんなが安心安全な自分の街を知り、伝えていく」

ベストアクション

- ・障がい者サポートとしてオレンジリング活動を強化します(セミナー受講しました)
- ・回覧板を電子化して、日々の地域状況を画面表示して顔が見える活動をする
- ・高齢者や障がい者の方に気を配り、あいさつ、声かけをする
- ・(世界文化遺産のような)地域の大切な場所、自然、動物について調べてみる
- ・自分の地域を知り、緊急時に若者が地域にとっての強みになるよう積極的になる
- ・日常生活やSNSで地域の活動を観察し、人のためになる行動をする

《 講 評 》

- ・自然との共存・防災をどのようにやっていくのか？「地域が家族」「多世代との交流」「外国人とのコミュニケーション」のようなハード面ではなくソフト面の意見が多かった。このような意見は他のテーマとも関わってくる
- ・1960年(60年前)に高潮対策が計画され新聞記事にもなっていた。実際に高潮対策が実施されたが、今でも高潮被害や災害は起こっている(どうしても避けられない)。→地域とのつながりがやはり大事

【テーマ：子育て、まなび】

①未来像：「はじめましてがなくて、みんなが助け合え、笑顔で楽しくいきる未来をつくる」

ベストアクション

- ・年齢関係なく自分から話しかける。進んであいさつをする。
- ・ボランティアで幅広くコミュニケーションをとる。
- ・明日朝からお手伝いをする。挨拶で助け合える未来に自分から変える！（電車で席を譲る）

②未来像：「世代を超えたつながりで、安心感のもてる創造性豊かな未来をつくる」

ベストアクション

- ・私は病児保育で子どもちゃんのお世話をすることができます。（施設やその方の家、社内の一室などで）
- ・自分のやりたい事で地域に貢献する

③未来像：「自己も他者もひとつの命。互いに認め合うことで、横のつながりを大切に共創できる未来をつくる」

ベストアクション

- ・子供たちと夢について話しあう。目標を共有する（おとなも子どもも）。
- ・おたがいをみとめあい、できたことを褒めあう。
- ・人は敵ではなく仲間、味方だと意識する。自分を好きでいる＝命を大切にする
- ・近所の人、職場の人と挨拶、会話で和やかな雰囲気づくりを！

《 講 評 》

- ・次世代を育てる学びが多かった。もう一つ大事なのが私たち大人がこれから生涯どのように学び続けるかがテーマ。知識はバージョンUPが必要であり、学び続ける事が大事。
- ・今まで阪神間はサラリーマンの時代であり、サラリーマンの住む場所（住宅地）であった。今後働き方を変えていくなかで、地域がどう変わっていく必要があるのか？それを子供たちにどう伝えていくのか？も必要。
- ・私たちは未来に、子供たちが思い描いた生き方・暮らし方をしたいという意見があったが、それを受け入れてもらえるような社会を用意してあげないといけない。子ども達に託す前に私達がまずその道筋を作っておく必要がある。

【テーマ：多様な働き方】

①未来像：「自分のやりたいことができ、働く時間を決め、場所を選ばずどこでもできる未来をつくる」

ベストアクション

- ・自分にやりたいことで、社会に貢献できる夢を見つける
- ・人間性を磨きながら、勉強をし続けていく
- ・人が安心して繋がりが合える街をつくる
- ・自分の経験をもとに全世界へ発信。やりたいことも発信！

②未来像：「働くための環境整備と、働き方についての相互理解で、心身や生活状況に関わらない働き方ができる未来」

ベストアクション

- ・“知る”“シェア”情報ツールの利用で意識改革と情報共有で働き方の幅を広げる！
- ・私は SNS 等を活用し働く企業に何を求めているのかを伝える。意見を伝える・知る
- ・相互理解を前提とした多様な働き方ができる未来→自分に何ができるか知る・シェアする
- ・自分から挨拶をする（相互理解の一步）
- ・IT を学ぶ（リモートワーク、育児、介護にも活用できる）
- ・経験をアウトプットする（暮らし方の感想から未来がかわる）

③未来像：「個人のライフスタイルを尊重し、自由に働くことができる社会」

ベストアクション

- ・学生生活において様々な価値観を学び、認め、尊重する
- ・色々な物事を客観的に見る事で知識や知恵が広がるので相手の事も理解でき尊重できる
- ・地域とつながりを感じられるコミュニケーションづくり（オンライン/リアル両方）
- ・学生から高齢者まで年齢関係なく能力を伸ばす仕事ができる応援をする
- ・副業できて自由な働き方をする
- ・生活の中で価値観の違う人と関わることでお互いを尊重し様々な固定概念をなくす

《 講 評 》

- ・多様な働き方というのは「新しい働く」をつくる、創造するという意味があるのではないか
- ・NPO 法人は 23 年経ってようやく浸透し当たり前になってきた。職業体験テーマパークの業種・職業の中にゲームクリエイターというブースがあった。きっと働くということがこれから変わっていく。新たな産業をつくってほしい。
- ・副業とか一定量の時間が確保できない皆さんが、ショートワークに関わる、企業に雇われるでもなく、雇うでもないもっと自由な働き方等を考えてほしい。
- ・「多様な働き方」というテーマでは「阪神地域の特性を活かした」という事を考えるのが難しかった。だからこそ新たな産業をこの阪神地域の特性を活かして考えてほしい。

【テーマ：地域とのつながり】

- ①未来像：「パッと会った人同士（観光客も含む）であいさつしあえて、尊重しあえる未来をつくる」

ベストアクション

- ・コミュニケーションを楽しんで過ごせる場を、もっと自分から！
- ・身近な人から笑顔であいさつ。近所の人から地域の人に広げていく。
- ・誰に対しても笑顔は欠かさない（世界共通）
- ・身近な人でも、初対面でも、まずは笑顔で話しかけてみる

- ②未来像：「多世代で学び合い、交流し、格差がなく、若い力をネットのツールを通じ社会にいかせる未来をつくる」

ベストアクション

- ・学校のイベントを地域の人と参加する
- ・地域の全ての世代が集える「祭り」の活性化に取り組む
- ・高校生ボランティア団体として、多世代交流の場を企画する
- ・地域の学校で「剪定法」「動画編集」「ゴルフ教室」「地域の昔話」
- ・時代の変化に目を向ける

- ③未来像：「テクノロジーも使いながら、どこでも若者が集える、若者が中心となって活躍できるような未来をつくる」

ベストアクション

- ・若者が前向きに地域活動（環境・防災）を発信し楽しく活動する
- ・若者がアイデアを出し続けて、わかりやすい説明で防災意識を若者中心で高めていく

- ④未来像：「多世代が交流し、お互いを尊重しながら、つながり、助け合い、世界に通用する魅力がある未来をつくる」

ベストアクション

- ・西宮、芦屋のスイーツを、地域の取り組みを掘り下げて、世界に発信する。
- ・多世代が交流できる集いの場をつくる（誰でもいける）
- ・まずは地域の住民（多世代）を理解し、各々を尊重する姿勢を示す
- ・世界に通用する魅力→地域と世界の接点を深く考える
- ・常に地域の宝を発見し、発信し掘り下げる

- ⑤未来像：「持続可能で、より平等化を実践し、誰もが助けあえる未来をつくる」

ベストアクション

- ・ ボランティアを通じ地域貢献。まずはやってみる！
- ・ 毎日笑顔で地域の人達の意見を聞きながら、安心安全な街づくりを目指す
- ・ 「人」「もの」「自然」を科学的（理性的）に捉える教育、啓発
- ・ 廃棄物の資源化技術を市民（ユーザー）協力
- ・ 障がい者、お年寄りが困っていれば助け、ボランティアを通して地域貢献する
- ・ 「人口減少、超高齢化、温暖化」←住みやすい街、交通、緑、歴史、文化

⑥未来像：「お互いがお互いを理解して、暮らしやすい阪神地域を作る」

ベストアクション

- ・ 阪神間の各地との交流によるお互いの理解の向上の為に、歴史、文化、地場産業を勉強して交流していく
- ・ 人と人とのコミュニケーションを大切にし、ボランティア活動にも参加して多くの人の考えを理解する！
- ・ お互いがお互いを理解するために、自分の考えを発信する。そのために地域で発信する場所を設けることが必要
- ・ 近所の人とあいさつからコミュニケーションをとり助け合えるよう信頼関係を築く
- ・ 英語をはじめとする外国語の習得。異文化交流イベントに参加する。
- ・ 世の中に出回っている情報の固定概念にとらわれず、互いを認め合い、互いが住みやすい町づくりをする。

《 講 評 》

- ・ 「まず行動」 やってみる事の楽しさにどんどんつなげていくことを期待している。
- ・ 今回「相互理解」「お互い」「あいさつ」といったような関係づくりに参加者の視点が変わっていると感じた。15年間専門委員を担当しているが「物」から「ソフト」に向かっていると感じる。
- ・ 最近大事だと思うことは「学ぶ」ということ。「勉強する」ことということと「学ぶ」ことは異なる。学ぶということとは「お互いのことを理解する」「お互いのことを知る」につながる。地域づくりもお互いに知る、学びあうことは大切。
- ・ 若い人たちがアットホームで、あたたかい人間的な提案をしてくれていることに、これからの地域社会が明るく感じた